

四十八 「子ども」をどうマネジメントするか？

「子ども」の教育者の一つの力として、教育する子どもの「マネジメント力」があると思います。「マネジメント」というと何か作られたもののように感じる人もあるかも知れませんが、これは教育者の「プロ」たる所以の大事なところで、まずは教育者なりの子どもに対する「理想像」を持つことが大切です。

そして、その理想像に近づけるための教育をするわけではなく、子どもと共にその歩む道を模索していく中で、教育者側がアドバイスをしながらこの「理想像」につなげていくようマネジメントをしていくのです。

当然、そこにはマネジメントしやすい子どももいればしにくい子どももいると思います。教育途中で一からその方向性を変更しなければいけないことも出て来るかもしれません。

しかし、決まらずに決めてはいけません。「教育する」ということは「最後までマネジメントに徹する」ということです。途中で投げ出してしまったら、それは「教育した」ことにはなりません。

ここで、再度確認しておきますが、理想の教育は最初の教育者が描いた理想像通りの形をマネジメントして作り上げることはありません。あくまでも「子ども」との交流の中で教育者の理想像を参考にしながらより良いものをマネジメントしていくということです。

これは教育者によっては、面倒臭さがったり、飽きてしまう人もいるかも知れません。しかし、

(以下中略)